大阪「とさ千里」で手打ちそば披露

町特産品の販売も

12月20・21日　高知の野菜や特産品などを産地直送で販売している大阪府吹田市の「とさ千里」で、てっぺんそば組合（鎌倉一一会長）による手打ちそばの実演販売や池川茶業組合（竹村憲太郎組合長）のお茶の試飲販売のほか、町の特産品の販売が行われました。

そば組合では、そばを利用して地域活性化に一役買おうと「食文化の伝承」をモットーに10年前に結成、イベントなどで実演販売を行っています。標高千㍍でも栽培できることから名付けられた秋そばで、小粒ながら絶品と称される健康食です。

２日間、そばを打ち続けた片岡成果副会長は「思った以上のお客さんの反応で自信を持った」と満足そうに話していました。

また秋葉のいりもち、フードプランの豆腐（水と豆のちから）も販売され「大阪にいりもちはないけれど、おいしい」「豆腐は濃厚」「お茶の香りがたまらん。古里を思い出す」など、買い物客の評価は上々。

「とさ千里」の小山登社長は「今後、仁淀川町の豆腐やいりもちなどを試食販売し、本格的に販売を始めたい」と話していました。

てっぺんそば組合と池川茶業組合の皆さん。
宿毛産マグロの解体販売の方と記念撮影

アルミ缶回収で車いす寄贈

12月25日　仁淀中学校生徒会から仁淀総合支所に車いす一台が寄贈され、車いすを備え付けておく仁淀多目的研修集会施設で贈呈式が行われました。

仁淀中生徒会では、平成十年からアルミ缶の回収に取り組んでいます。八百㌔で車いす一台と交換することができ、これまでに二台をデイサービスセンターせいらん荘に寄贈しています。

仁淀中から広がる協力の輪

地道なボランティア活動ですが、徐々に協力の輪が地域に広がり、学校に届けられるアルミ缶も年を追うごとに増え、八百㌔という目標の量に達成するまでの期間も短くなってきました。

贈呈式で生徒会役員は「この施設を利用する方の役に立ってほしいです。これからも、この活動にご協力をお願いします」とあいさつ。これに対し大石弘秋副町長は「大事に使わせてもらいます。皆さんの温かい気持ちが、地域の方々に伝わると思います」とお礼を述べました。

仁淀中生徒会の皆さんと大石副町長

思いやりの心を育てよう
「人権の花」運動

「人権の花」運動は、主に小学生を対象とした全国的な人権啓発運動です。花を育てることによって、思いやりの心をはぐくんでもらおうと、昭和57年度から実施されているもので、人権擁護委員が学校を訪問し、花の苗などを贈呈しています。

本年度、町内では3校がこの運動に指定されています。池川・長者・大崎小学校には、それぞれの地区の人権擁護委員から苗などが贈られており、きれいな花を咲かせています。

長者小には坂本直子人権擁護委員から
花の苗が贈られました（12月21日）

防火の決意新た
町消防団出初式に240人

1月25日　町消防団の出初式が、藤原芳男団長以下約二百四十人の団員が参加して、仁淀中学校グラウンドで行われました。

最初に階級異動のあった団員に辞令が交付され、次に平成二十年中にそれぞれの管轄区域において火災が一件もなかった十二分団に対し、日ごろの防火啓発活動に敬意を表し、無火災報奨が贈られました。また自分たちの地域を自ら守るため、ボランティアで活動している久喜自主消防団に対しては謝礼が贈られました。

その後、服装および機械器具点検、分列行進などを行い、今年一年の無火災を祈念しつつ防火に対する決意を新たにしました。

式典終了後、昨年全国的に多く見られた硫化水素を用いた自殺で、有毒ガスによる二次被害が相次いでいることから、高吾北消防本部に配備されている防護服を着用しての対応方法のデモンストレーションが行われました。

万一、有毒ガスの発生が疑われるような状況に遭った場合は、むやみに近づかず、消防署員の到着を待つなどの注意が徹底されました。

無火災報奨（十二分団）

大崎・名野川・中津・池川・用居・狩山・安居・森・泉川・高瀬・沢渡・別枝

有毒ガスに対応する防護服でのデモンストレーション

平成20年中の火災・救急・救助出動状況〈高吾北消防本部〉

高吾北消防本部では、平成20年中の火災・救急・救助出動状況をまとめました。

〈火災概況〉　件数・損害額とも減少

火災件数は前年より８件減少し過去２番目に少ない件数に、損害額も前年の20分の１と過去最も少ない額となっています。（表１）

火災の原因はたき火関係が８件で最も多く、子どもの火遊び、たばこの不始末、燃えている物の不始末、風呂のたき口からの飛び火がそれぞれ１件、原因が特定できなかったものが２件ありました。

表1　火災発生件数と損害額

町名	平成19年中		平成20年中	
	件数	損害額（千円）	件数	損害額（千円）
佐川町	15	35,641	6	2,542
越知町	2	0	5	47
仁淀川町	5	18,843	3	104
計	22	54,484	14	2,693

〈救急出場状況〉　即応しきれないケースも

救急出場件数、搬送人員とも前年より減少しています。（表２）

しかし、高知市内などの高次医療機関への搬送人員が全体の約６割を占めており、２台の救急車が出場中にも救急要請が入るなど、即応しきれないケースも目立っています。

表2　救急出場件数と搬送人員状況

町名	平成19年中		平成20年中	
	件数	人員	件数	人員
佐川町	684	646	629	602
越知町	405	394	339	334
仁淀川町	441	418	384	374
管外	0	0	6	5
計	1,530	1,458	1,358	1,315

〈救助出動状況〉　大半は交通事故

救助出動件数は前年より９件減少しています。（表３）

交通事故の出動が22件と大半を占めています。

表3　救助出動件数

町名	平成19年中	平成20年中
佐川町	23	13
越知町	7	6
仁淀川町	6	7
管外	0	1
計	36	27

仁淀川町とバイオマスのこれから！
バイオマス実験事業

森が生み出す新エネルギー⑥

環境対策の分野で森林に新たな商業価値が生まれつつある

仁淀川町の取り組む『仁淀川流域エネルギー自給システムの構築』（通称バイオマス実験事業）は林地残材を活用し、発電やペレット燃料を作り、流域の施設でエネルギーを使い切るという「エネルギーの地産地消」ができる仕組みづくりを行っています。今回は仁淀川町の今後のバイオマスに対する取り組みについてお話しします。

仁淀川町の森林資源とバイオマス

我が国の林業は、安価な外国産材との競合による材価の低迷により、その置かれている環境は決して良好な条件にあるとは言えません。しかしながら、近年の中国の経済成長により世界規模での木材の需給バランスが変化し、我が国の木材価値が高まるのではないかとの憶測がなされています。また、環境面に優れ、高騰する化石燃料に変わる新エネルギーとして林地残材などを利用するバイオマス産業や、更には高知県が先進的に取り組みを行っているCO$_2$吸収認証制度や、洞爺湖サミットで話題となった排出権取引など、環境対策の分野で森林に商業的価値が生まれつつあります。仁淀川町では豊富な森林資源を活用したバイオマス産業が林業活性化の大きなきっかけになるものと考えています。

バイオマス実験事業終了後の平成二十二年度からは、それぞれの施設が自立した運営を行うこととなります。

今後の目標として、森林整備の推進と同時に林地残材の受け入れ量の増加を図り、林業収入の増加と健全な森林の育成を目指します。また、そこから生まれる林地残材によって作られるペレットについては、病院や福祉施設、農業用施設などへのペレットボイラーの設置、家庭用ペレットストーブの普及促進など需要の拡大を目指します。やがては需要と供給量を拡大し、製造コストの削減を図りながら、さらには関連する産業への新たな雇用へもつなげていきたいと思います。

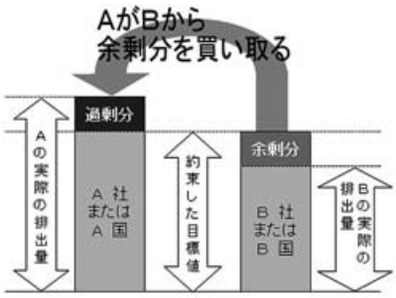
バイオマスの利用を促進させるため一番大切なことは「住民参加と取り組んできた経験」と言われています。約四年前に実験事業をスタートし、いくつかの改善を行ってきた仁淀川町は、全国でも先進的な取り組みを行っていますが、施設や実験事業の対象エリアで見れば決して大規模とは言えません。しかしながらそのことは大きな利点であり、地域の一人一人の取り組みが事業に大きく反映されます。今後は地域住民の参加や助言をいただきながら少しずつ地域に根ざし、また将来的には仁淀川町の地域活性化の一翼を担えるよう頑張っていきたいと思います。

バイオマス豆知識

『排出権取引』

『排出権取引』とは、国や企業ごとに温室効果ガスの排出枠を定め、排出枠が余った国や企業と、排出枠を超えて排出してしまった国や企業との間で取引する制度です。

排出権取引の仕組み



モニカ先生とクリスマス！

仁淀川町にＡＬＴ（外国語指導助手）のモニカ先生が赴任して、３度目の冬になりました。お菓子作りが大好きなモニカ先生は、２学期最後の授業で、クリスマスを待つアメリカの家庭の習慣を、楽しいレッスンにして子どもたちに紹介してくれました。

小学校では子どもたちの成長に合わせ学年によって活動に変化をもたせ、クッキーやカップケーキのサンタクロース、ポップコーンの雪だるま作りに挑戦しました。

中学校では３年生がジンジャーブレッドハウス（お菓子の家）作りに熱中し、卒業を控え楽しい思い出ができたようです。飾り用に使った材料はすべてお菓子で、中にはモニカ先生のお母さんがアメリカから送ってくれた、色鮮やかなアメや砂糖もあり「こんなん見たことない！」「これも食べれるが？」と驚きと期待いっぱいの声があがっていました。できあがった色とりどりの傑作は廊下や教室に展示し、放課後家に持ち帰るまでの間、校内で鑑賞してもらいました。

モニカ先生の説明や指示はもちろん英語です。上手に聞き取り内容を理解した子どもたちは、まず見本と材料を見ながら想像を膨らませました。それは「オリジナル（自分だけのもの）を大事にしてね」と言ったモニカ先生の声をしっかり受け止め、「考える」大事な時間です。何かを作りながら英語の表現や他国の文化に触れるのは、大人にも子どもにも貴重な体験ですね。一緒に参加してくださった先生方ありがとうございました。

とっても上手にできたんだよ～

仁淀川町奨学資金を貸し付けます

経済的理由により修学が困難な学生および生徒に対し、平成二十一年度仁淀川町奨学資金の貸し付けを行います。

1・資　格

仁淀川町に二年以上住所を有し、町税などの滞納がない者の子で次の条件を満たす者

・品行方正にして勉学意欲旺盛で学資支弁の困難な者

・高等学校（通信制除く）、高等専門学校、大学（大学院、短期大学含む）、専修学校に籍を置く者

2・貸与額

①高等学校、高等専門学校、専修学校に在籍する者　一カ月二万五千円以内

②大学に在籍する者　一カ月三万七千円以内

3・返　還

卒業後、満一カ年を経過した月から毎月その借受金と同額を返済する。ただし、本人の便宜上奨学金の全部または一部を繰り上げて返還することができる

4・申請締め切り（貸与願、成績証明書提出）

四月十七日（金）

（教育委員会または各教育事務所必着）

5・その他

保証人が二人必要（一人は父母または親族縁故者、一人は町内の者）

問い合わせ

町教育委員会　☎35・0019

惑星からの電波放射の謎を探る（一般向け講演会）

講師　京都大学生存圏研究所
　　教授（工学博士）橋本弘蔵氏
日時　２月14日（土）
　　午前10時30分～正午
場所　中央公民館３階会議室

「地球電磁気・地球惑星圏学会　第115回生存圏シンポジウム・波動分科会」が吾川木星電波観測所（しもなの郷）で２月14・15日に開催されるのにあたり、橋本弘蔵教授の一般向け講演を行います。

問い合わせ　町教育委員会　☎35・0019

生活のないところでまつりはできない

二月十一日の秋葉まつりまであとわずか。別枝の里は、一年中で一番活気にあふれる季節を迎えました。土佐の三大祭りの一つで二百年以上の歴史を誇る秋葉まつり。準備やＰＲに奔走されている、秋葉神社祭礼練り保存会会長の吉岡郷継さんにお話を伺いました。

吉岡郷継（よしおか さとつぐ）さん

秋葉神社祭礼練り保存会会長
高知市在住　67歳

各組の「ならし」を回り、打ち合わせに余念のない吉岡さん

物心ついたころからまつりが身につく

吉岡さんは沢渡生まれ。「物心ついたころから『ならし（太刀踊りや鳥毛の練習）』を見ていました。たき火にあたりながら、先輩たちの動きを見ていると、自然にリズムが身につき、体が動くようになりました」と懐かしそうに振り返る吉岡さん。中学二年生で高知市に引っ越すまで、太刀踊りに参加していました。

四代目会長

昭和四十一年に発足した保存会の初代会長は吉岡さんの父、重忠さん。

まつりの保存活動として、記録映画、冊子などを作るのに吉岡さんもかかわりました。

平成十六年に四代目の会長に就任。「仕事もやめていたので広報担当くらいはできるかもしれないと思い、副会長になりました。それがいつのまにか会長に…」と笑っていました。

やらんといかんことがあり過ぎて…

まつりまであと三週間余り。「やらんといかんことがあり過ぎて、大変です。各組（霧之窪・本村・沢渡）を回り『ならし』が順調に進んでいるかを見たり、ポスターの掲示を依頼して回ったり。報道関係の対応もありますね」と、多忙を極める吉岡さん。

このほか、五年、十年と連続して参加している子どもたちを表彰するための準備なども行っています。

初の三組合同「ならし」

一月三十一日に別府小学校で三組合同の「ならし」が行われます。

まつりに参加している子どもたちのほとんどが別府小の児童であることから、おじいちゃん、おばあちゃんに、孫がどんな練習をしているのかを見てもらいたい、また、より一層地域の

人たちに、まつりを身近に感じてもらいたい、といったことから初めて行われることになりました。

「まつりに参加していない子どもたちにも、ぜひ見てもらいたい。笛や太鼓の音を聞き、体にリズムが入ってくる、自然に体が動く、といった感覚を体験してもらいたい」と吉岡さんもその日を楽しみにしているようでした。

山里でやるから本当のまつり

旧暦一月十八日に行われていたまつりを、平成六年から二月十一日に固定しました。それ以来、参拝客、見物客が大幅に増えてきました。

昨年は大型バス五十台が来たとのこと。大勢の人を引きつけるまつりの魅力とは？

「何回もまつりに来てくれる人たちは『昔から変わらず、この土地でやっているのが素晴らしい。この土地の方々と触れ合う感覚がある。土地の方と顔見知りになり、生活が垣間見える』と言ってくれます。そういうところが魅力でしょうか」と語る吉岡さん。

さらに「人家がない所でやるのは、まつりではない。山里でやるから本当のまつり。『山里』が単なる『山』になっては何にもならない。そこに生活がないといけない」と、地域の人口減少、集落存続が今後の課題であるということも訴えていました。

最後に「本番に向け、地域が一体となって一生懸命取り組んでいます。ぜひ大勢の人に見てもらいたいと思います」と締めくくっていただきました。

（取材・一月十八日）

兄弟で鳥毛役

長さ約6.5㍍の毛やり（鳥毛）を投げ合う「鳥毛ひねり」は、まつりの花形。

今年の沢渡組の鳥毛役は岸本憲明さん(26)＝写真右＝、将良さん(24)ご兄弟です。

憲明さんは今回で4年目。将良さんは初めて大役に挑戦します。

ご兄弟で取り組むことについては「気兼ねせずに何でも言い合えるのでやりやすい」。お兄さんから弟さんへのアドバイスは「練習あるのみ！」

寒い中、汗だくになって練習に励んでいるお二人。本番が楽しみです。

大先輩からの指導を受けて…

今年は１月10日から、ならしが始まりました。初日から雪が舞うなど、厳しい寒さの中で、太刀踊りに参加する小学生は、大先輩方から手取り足取りの指導を受け、一生懸命練習に励んでいます。

本村組のならし

女の子も出番です!

まつりの練りが練り歩く時間に、秋葉神社では「稚児舞（ちごのまい）」が奉納されます。

今年舞うのは、別府小学校の掛水真帆さん（五年）、片岡杏菜さん（五年）、藤原万弓さん（四年）、掛水涼香さん（三年）、片岡瑞穂さん（二年）と名野川小学校の掛水咲良さん（三年）の六人。週に一度、掛水笑子さん（森山）の指導で練習を重ねています。

当日、舞は午前九時から午後二時ごろまで。巫女の衣装を身に着け、優雅な舞を繰り広げます。

真剣に練習に励む小学生